

## 2 研究の実際

### (5) 音楽科における言語活動の充実の工夫

言語活動は手立てであり、音楽科の教科目標や指導事項をよりよく実現させるために有効な手立てです。表現や鑑賞の学習を深めていく過程において、自分の考えを音や言葉で伝え合い、友達の考えに共感したり、考え方を共有したりできるように、音と言葉によるコミュニケーションを図る指導を充実させることが重要です。その際、音楽表現に対する思いや意図、感じ取ったことや想像したことなどを言葉で適切に表すことができるようにすること、言葉で表す活動と実際に音で表したり音楽を聴いたりする活動とのバランスを図ることが大切です。

#### 音を媒体としたコミュニケーションと言語によるコミュニケーションのバランス

- ・「歌唱」や「器楽」の活動で、仲間と共に表現を工夫する活動では、歌い試したり、リコーダーで吹き試したりするなど、実際に音を出して確かめながら、表現を工夫するようにさせる。
- ・「音楽づくり」「創作」の活動では、楽器を演奏したり、声に出したりするなど、実際に音を出して確かめながら、取り組むようにさせる。
- ・表現の活動では、ICTを活用するなどして、自分たちの演奏を録音・録画したものを後で視聴させ、振り返って確認させながら、表現を工夫させる。
- ・音楽的な特徴などを理由として挙げながら音楽のよさや美しさなどについて伝え合わせる活動において、実際に音楽を聴いて確認しながら話し合わせる。
  - (音源の例)・タブレットPC…聴きたいところから、何度でも再生できる。
  - ・CDラジカセ…操作が簡単

#### 聴覚と視覚を関わらせる工夫

- ・旋律の動きを聴き取らせた後で、図形楽譜を用いるなどして視覚的に捉えさせて、確認させる。
- ・旋律と旋律の関係を聴き取らせた後で、楽譜を見ながら旋律の関係を確認させる。
- ・用語や記号の理解を言葉による理解に留めず、実際の音楽を通して確認させる。

#### 知覚・感受を豊かにする工夫

- ・知覚したことと感受したことを整理して言葉で表すことができるようなワークシートを工夫する。
- ・音楽表現に対する自分なりの思いや意図を言葉で表すためのワークシートを工夫する。
- ・旋律の動きを身体で表現させるなどしながら特徴をつかませてから、言葉で表現させる。
- ・「知覚シート」「感受シート」を準備し、言葉の例を示すなどして、表現語彙を増やす。

#### 比較聴取の工夫

- ・楽曲の特徴を知覚させるために、楽曲をいくつかの場面に分けて聴かせたり、複数の曲を比較して聴かせたりする。